＜慶應看護同窓会 紅梅会＞東京都新宿区信濃町 35 孝養舎内　2016 年 3 月 30 日発行
TEL・FAX 03(3341)8116　URL：http://keio-koubaikai.jp/

紅梅會會報

第 104 号

会長あいさつ

60 回生　三上　れつ

年頭にあたり新春のご挨拶を申し上げます。

今年の干支は「丙申（ひのえさる）年」。激しく燃え広がる意味があり、革命の年ともいわれています。

憲法改正が問われる夏の参議院選挙、アメリカの大統領選挙、日韓外交、中国経済の変容など、いにしえの言葉通り、変化の年であることを予感させる出来事が続きます。慶應看護や医学部も創立 100 年を前に、大きく前進する変革の年になるように祈念いたしております。

会員の皆様にとっても変化があるかもしれませんが、叡智を結集して、困難を乗り越え人間として成長できる発展の年にしたいものです。

昨年は戦後 70 年ということで、様々な特集を目にすることが多くありました。中でも、今年の元旦に発行された『塾』（289 号）の、「戦中、戦後の義塾をめぐって」には、空襲によるキャンパスの被災写真が掲載され、義塾は最も戦災の被害を受けた大学であることを知りました。皆様も一度は目にしていると思いますが、医学部のある四谷キャンパス（現信濃町キャンパス）の被災写真は、建物がほとんど見当たらず、木造校舎の大部分と病院が失われたことを改めて実感いたしました。戦中、戦後の厳しい時代に、義塾の看護学生や看護婦であった先輩諸姉は、どのようにして復興にかかわり、今につないできたのかを考えると感慨深いものがあります。何もない中で厚生女子学院として認可を受けるまでのことを、厚生女子学院 60 周年記念誌や医学部 60 周年記念誌ならびに聞き取り調査で知る機会があり、2017 年の医学部創立 100 年の記念事業である新病院棟建設について、微力ながら私たちも協力して、信濃町キャンパスの益々の発展を支えていく責任があるように思います。

今期の最重要課題は、慶應看護 100 年記念事業（2018 年）を成功させるための資金捻出でした。会員ならびに関係者の皆様のご協力により、2 月末日現在 1,734 万円で目標額達成まであとわずかであることをご報告申し上げます。会報配布の際には、募金用紙を同封しています。つきましては、募金目標額 2,000 万円の達成のために、会員の皆様方の更なるご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

また、慶應看護 100 年記念事業の目標額達成後は、新病院棟建設資金の寄付にシフトしていくことが今年度紅梅会総会で承認されております。私たちの後輩が実習で看護の実学を身につけ、人々によりよいケアを提供できるように、少しでも多くの卒業生からの寄付を推進していきたいと考えています。

それでは、皆様、5 月 8 日（日）の母の日の総会でお目にかかれることを委員一同楽しみにお待ちしておりますので、クラス会などを兼ねてご参集いただけますようにお願い申し上げます。

春号の主な内容

◆ 2016年度 第73回 総会のご案内 …2ページ
◆慶應義塾大学病院のトピックス ……3ページ
◆看護医療学部だより ……4ページ
◆連合三田会報告 ……4ページ
◆学部生の活動 ……5ページ
◆世代をつなぐ「Link age」活躍する同窓生 ……6ページ
◆同窓会報告 ……7ページ
◆研修会報告 ……8ページ

会報発送者数3306名（2016年２月29日現在）

2016 年度

第73回 総会のご案内

今年も総会の季節となりました。

毎年ご好評をいただいております東京ガーデンパレスホテルで、例年通り母の日に開催いたします。

今年も楽しいひと時をお過ごしいただけますように準備に励んでおります。今年の講演は、「健康寿命」をテーマにして、日常生活にも介護や看護の仕事にも役立つ食事や栄養に関するお話を企画しています。

どうぞご友人や先輩後輩の方々をお誘い合わせの上、ご参加いただけますように心からお待ちしております。

（準備委員長　84 回生　江河　都美）

日　時　**2016 年 5 月 8 日（日）**

午前 10時30分 開会　午後 2 時 閉会　（午前10時開場）

場　所　**東京ガーデンパレス**　＜会場＞高千穂

〒 113-0034 東京都文京区湯島 1−7−5
（御茶ノ水駅より徒歩 5 分
聖橋を渡って東京医科歯科大学の裏）
TEL 03−3813−6231・6237
http://www.hotelgp-tokyo.com

会　費　**8,500 円**

会場への道順は同封の地図を参照して下さい。

申し込みについて

＊総会の出欠は、同封のはがきで 4 月 18 日（月）までに返信し、同封の振込用紙で 4 月 25 日（月）までに入金をお願いします。

＊付き添いの方が参加される場合は席をご用意します。
また、実費（6,250 円）で付き添いの方の食事のご用意も承りますので、同封のはがきの通信欄にその旨を記載し、入金をお願いします。

＊駐車場割引・宿泊割引があります。
直接、東京ガーデンパレスへお問い合わせください。

プログラム

1. 開会の言葉
2. 会長挨拶
3. 報告事項
   - 看護医療学部現状報告
   - 大学病院現状報告
   - 役委員会報告
4. 審議事項
5. 質疑応答
6. 新旧役員挨拶
7. 講演
   テーマ
   「健康寿命をのばす
   食事への一工夫」
   元慶應義塾大学病院
   食養管理室
   管理栄養士　鈴木和子
8. 会員代表挨拶・乾杯
   会 食
9. 閉会の言葉

慶應義塾大学病院のトピックス

1．2015 年 10 月病院新体制スタート

病院執行部は病院長の任期満了に伴い、2015 年 10 月より新体制でスタートしました。

病院長は竹内勤教授（内科学）が再任され、副病院長は大家基嗣教授（泌尿器科学）、北川雄光教授（外科学）、佐谷秀行教授（先端医科学研究所）、長谷川奉延教授（小児科学）、三村將教授（精神・神経科学）の 5 名となりました。今期は、臨床研究中核病院の整備に向けて、臨床研究推進センター長である佐谷教授が任命されました。

病院執行部は病院長、副病院長に病院事務局長、看護部長が加わる体制となりました。

2. 白梅寮解体決まる！　紅梅寮は多職種使用に

白梅寮は 1957 年に建設され、長年に渡り看護師の生活拠点として使用されてきました。1974 年には紅梅寮が竣工し、看護師寮は文化活動や社会教育活動など豊かな人間性を育む場となっていました。こうした中、時代の流れとともに二人部屋から個室へとなり、2004 年には臨床研修医制度により研修医の寮、食養課職員の宿直室としてなど、多職種で使用するよう変化していきました。また、2011 年 3 月東日本大震災後は耐震性の低さが白梅寮の問題となっており、居住を徐々に紅梅寮に移していきました。白梅寮に変わる新たな寮の建設や紅梅寮の使用方法の検討を重ね、今年度、白梅寮の解体、紅梅寮の耐震工事が決定し、すでに工事が始まっています。紅梅寮は看護師・研修医の居室、食養課職員の宿直室として使用することになります。研修医は 4 階、看護師は 5 階～ 8 階の使用となります。11 月より耐震工事、シャワー室設置、トイレの改修などを行い、3 月下旬にリニューアルし､新採用者を迎えます。白梅寮は､12 月より解体工事を行っています。　（78 回生　鎮目　美代子）

3. 新病院棟建設事業進捗状況

1 号館Ⅰ期棟がオープン、Ⅱ期棟工事エリアの解体作業がスタート

新病院棟建設事業は 7 月の 1 号館Ⅰ期棟完成後、地下 1 階から 6 階まで移転が終了、運用を開始いたしました。これら一連の移転稼動に伴い、来春の 1 号館Ⅱ期棟の着工に向けて、工事エリア（中央棟北側、臨床講堂、7 号棟、放射線治療棟、CT ／ MRI 棟など）の解体作業が 10 月からスタートいたしました。中でも、1954 年に竣工した 7 号棟は 1 階から 5 階まで病棟として利用し、紅梅会の皆様にも親しまれた建物です。この度 60 年あまりの歴史に幕を閉じ、次の歴史へと繋がる為の準備として解体されました。

1 号館Ⅰ期棟：４Ｅ病棟（消化器系病棟）6E 病棟（小児系病棟）のご紹介

1 号館Ⅰ期棟の 4 階と 6 階には其々中央棟 4N 病棟（消化器系病棟）と、中央棟 3N 病棟（小児系病棟）が移転いたしました。病棟内は新病院棟のコンセプトに添った、新しい試みが随所に導入されております。4E 病棟では、間仕切り家具を利用し、プライバシーの保持や療養の快適性の改善を目的とした、準個室タイプの病室を準備いたしました。又、面会の方と、患者さん・ご家族がお食事を摂りながら過ごす為のロビーを設置しております。6E 病棟でも同じく、お食事ができるロビーや、新しい試みとして学校の教室をイメージした学習室ができ、患者さん・ご家族にご利用いただいております。そして、4E、6E 共に病院の機能として重要なスタンダードプリコーションを遵守する為の仕組みとして、廊下に手洗い器を増設し、清潔・不潔のゾーニングを明確にした作業室（旧：汚物処理室）を設置いたしました。これらの試みを、Ⅱ期棟へと繋げていきます。

4E（消化器系病棟）
病棟間仕切り家具付き 4 人床

6Ｅ（小児系病棟）ロビー

＜今後の予定＞

・7 号棟、中央棟北側など解体工事：2015 年 9 月～ 2016 年 2 月
・1 号館（新病院棟）第Ⅱ期建設工事：2016 年 3 月～ 2018 年 3 月
・1 号館（新病院棟）、2 号館連絡棟建設工事など：2018 年 5 月～ 2020 年 2 月

（85 回生　梅田　光代）

看護医療学部だより

最初に、紅梅会の皆様にご挨拶を申しあげます。昨年10月より、看護医療学部長を拝命致しました小松浩子です。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

新たな学部運営委員会のもと、学部ではさらなる発展にむけた2つの大きな事業に取り組んでいます。一つは、「慶應看護100年」への取り組みです。本事業は紅梅会が募金主体となって取り組んで頂いている「慶應看護100年記念事業募金」により推進するものです。改めて、紅梅会のご尽力・ご支援に心より感謝申し上げます。＜慶應看護100年記念誌編纂・発刊、アーカイブ事業＞および＜看護ベストプラクティス研究・教育基盤強化＞を2018年の100周年をめざし進めております。学部ホームページを開いて頂くと、右上に大きく、「慶應看護100年記念事業」が目に飛び込んできます。そのタグをクリックすると1918年の医学科付属看護婦養成所開設から始まる慶應看護の歴史が年表となって紐解かれます。「独立自尊」と「実学」を重んじる看護教育の継承と「21世紀の看護医療の先導」の方向性について確認頂けるものと思います。看護ベストプラクティス研究・教育基盤強化事業では、集積した科学的エビデンスを社会に届けるために、ホームページの開設をすすめています。慶應看護の新たな歴史認識とさらなる発展の道程を皆様とともに考える大切な機会となるようご協力・ご支援を引き続きよろしくお願い致します。

もう一つは、塾全体で取り組んでいるスーパーグローバル大学創成支援事業です。本学は、世界トップレベルの教育、研究を行う日本の13の大学のひとつに選ばれ、現在、次の3つの柱で全塾による事業が進められています。高齢化に対処して豊かな長寿社会を作る「長寿」、様々なリスクの増大に対処して安心できる社会を作る「安全」、そして市場や技術の構造変化に対処して豊かな社会を作る「創造」、という3つの研究、教育クラスターが立ち上がっています。看護医療学部では、この事業の一翼を担い、短期留学（受入）プログラム「日本の高齢社会と看護医療」を計画しています。長寿社会で培われた医療・ケアを異なる国の地平から議論することにより、先導者となる学生が医療・ケアの新たな次元を見出すことが期待できます。学生たちが、世界的な視点から看護医療の先導者として羽ばたいていくことができるよう、更なるご指導、ご支援をよろしくお願い致します。

最後に心温まる身近な出来事をお伝え致します。12月12日土曜の午後、慶應義塾大学病院で恒例の「サンタ企画」が開催されました。15の学生団体による音楽の調べが病院内に拡がり、ベッドや車椅子で参加された皆さまからも暖かなまなざしを頂くことができました。学生の方々の周到な準備、それを支援して頂きました看護部、病院関連部署、教職員の皆様に心より感謝申し上げます。ケアの原点に返るこのような事業を創って下さった茶園美香先生をはじめ歴代の教員の皆様に改めて御礼申し上げます。

（看護医療学部長　小松　浩子）

2015年慶應連合三田会大会の報告

2015年10月25日（日）、日吉キャンパスで2015年慶應連合三田会大会が開催されました。二万人を超える来場者で、晴天の中、活気ある祭典を行うことができました。

社中の協力のもと、加山雄三さんのスペシャルライブを始め、鈴木明子さんなど慶應にゆかりのあるアスリート達によるトークショー、医学部主催のブラックジャックセミナーなど、大盛況のうちに終えることができました。

大会スローガン「Light up our Future.“叡智の光あきらかに”」には、我々の叡智を結集して未来を照らそうという思いが込められています。この大会に参加して、私たちの未来を輝かせていくための大きな力を実感することができました。

今年は多くの紅梅会員が救護部会として参加し、役割を担ってくれました。同級生とのプチ同窓会だけでなく、頼もしい後輩達との関わりも実に楽しいものでした。

今年は救護部会の活動のためお酒は飲めませんでしたが、来年は大いに飲んで食べて大会を満喫したいと思います。皆さまも、是非一度足を運んでいただき、社中の協力を実感してみてはいかがでしょうか。

ご参加いただきました関係者の皆さま、ありがとうございました。　（84回生　江河　都美）

学部生の活動

CISCA の活動

学生団体 CISCA（シスカ）は、医学部、看護医療学部、薬学部の学生で構成されています。2010 年結成と比較的新しく、柔軟に新しいことを始めたり伝統を守ったりしながら年々進化している団体です。「医療系学生に新しい価値観を！」の理念に基づき 3 つの学部が合同で活動しています。異なる学部の学生が共に活動することで、相互理解を深めたり広い視野を養います。

具体的な活動内容をご紹介します。CISCA では週に一度、慶應病院小児病棟で読み聞かせボランティアを行っています。「読み聞かせ」という名称ですが、内容は読み聞かせに限りません。子どもたちと一緒におしゃべりをしたり、赤ちゃんであればおもちゃであやしたりと、対象のお子さんに合わせて少しでもその時間が楽しくなったり、寂しさが和らいだりするような関わりを目指しています。

また、学園祭での売り上げで DVD などを購入し、小児病棟に寄贈をしています。ボランティア活動をさせていただいていることへのお礼でもありますし、子どもたちの入院生活に少しでも楽しみが増えればとの思いで毎年寄贈をさせていただいております。

その他、今年は新しい活動として、保育園の子どもたちを対象に手洗い指導をする企画も実施しました。CISCA ではこのように、結成時から続いている活動に加え、メンバーの意欲を原動力とした新しい活動がどんどん増えています。

私は看護を学んでいますが、CISCA の活動で子どもたちと関わっていると、実習とはまた違った学びがあることが魅力です。笑顔を見ることばかりではなく、涙に接することもあります。だからこそ子どもたちのために何ができるだろう、と考えさせてくれるのです。

CISCA にやれることはまだまだあると思っています。メンバー皆で協力しながら、これからも活動を充実させていきたいです。

（看護医療学部 3 年　学生団体 CISCA 代表　千々布　珠聡）

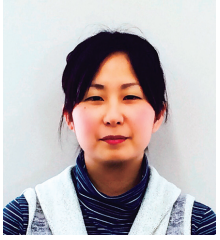
仲間と心をかさねたピニングセレモニー

青葉茂る盛夏のころ、湘南藤沢キャンパスで看護医療学部 2 年生を対象にしたピニングセレモニーが執り行われました。

ピニングセレモニーとは、本格的な実習を控えた看護医療学部生が今一度、自らの理想の看護について見つめ直し、決意を新たにする式典のことです。

私たち 2 年生はこのセレモニーの直後から慶應病院をはじめとする看護・医療の場での実習に参加していきます。

ピニングセレモニーでは、いつも温かくご指導くださる看護医療学部の教職員の方が一人一人の学生の名前を呼び、個々の学生所信表明をし、学部長からは塾のペンマークのピンバッジを授与されました。看護を学ぶ塾生が理想の看護について真剣に追求している姿や抱負などを知る機会にもなり、他の塾生への尊敬の念を抱くとともに自分の身が引き締まる想いでいっぱいでした。そのことにより、看護医療学部生の結束が一層強くなったのではないかと実感しています。また、このように慶應義塾の恵まれた学び舎で看護を学ぶことができているのも、教職員のみなさま方、ならびに慶應義塾の関係者、いつもそばで支えてくれている家族や友人のおかげであると感謝いたします。



この頂いたピンバッジを胸に、福澤先生が説かれた「全社会の先導者たらんことを欲するものなり」とあるように、先輩方が切り拓いた看護の道に敬意を表し、慶應看護の歴史に誇りをもちつつ、それぞれの目指すべき看護を追求しようと決意を新たにいたしました。

（看護医療学部 2 年　坂本　美佳）

教えることを通して教えられる経験～看護基礎教育に携わっています～

短３回生、健康マネジメント研究科（修士課程）１回生　髙田　幸江

卒業論文担当学生と

看護師だった母の影響で、幼い頃から「看護師になる」と決めていた為、短大卒業後すぐに慶應病院 6N 病棟（泌尿器外科）で約４年勤務しました。息子が小学校に上がる頃、慶應で大学院教育が始まることを知り、健康マネジメント研究科に進学し､親子そろって“ピカピカの一年生”となりました。卒業後、慶應義塾大学看護医療学部で５年間の助教を経て、現在は聖路加国際大学で成人看護学教員として勤務しています。

大学では３年生の慢性期看護学と実習、４年生の終末期看護学と実習、卒業研究等を担当しています。私が大事にしているのは、「人は成長する可能性を持った存在である」と信じることです。知識や技術は指導や学習の効果が現れやすいですが、看護の姿勢や看護観等の情意面の成長は外から見えにくいだけでなく、その効果が何十年も先になって現れる場合もあります。これらは看護師としての基盤となるため、その影響も大きいことを認識しながら学生に関わっています。看護は様々なフィールドがあり、生涯を通じ活躍できる素晴らしい専門職です。学生には看護基礎教育の間に、看護の魅力とその奥深さを感じる経験をしてもらいたいと思います。学生の新鮮な感性に触れる事も多く、教えることを通して自分自身も教えられ、成長に繋がっていることを実感する毎日です。

成人看護学実習（慢性期）担当学生と

教育に携わりながら研究にも取り組んでいます。6N で生体腎移植に関わった経験から、ドナー看護に関心を持つようになりました。仕事をしながら博士課程に進学し、多くの人に支えられ「生体腎移植ドナー看護」について博士論文をまとめました。卒業後 20 年以上が経過しましたが、20 年前の私は「今の私」を想像できたでしょうか。慶應を卒業した仲間が、それぞれのかけがえのない人生を歩んでいることに感謝し、筆をおくことにします。

既存の枠に捉われない医学教育を求めて

学 10 回生　半田　友里香

アメリカ生まれの私は、幼い頃から弁護士になることが夢でした。都立日比谷高校に在学中も、法学部を目指し文系科目ばかり勉強していましたが、大学受験の際、駅のホームで倒れた男性を眼前とし、「助けたい！」と思ったことがきっかけで理系に転向、翌年に慶應義塾大学看護医療学部に入学しました。今振り返ると、兄たちが医師、姉が看護師という家庭環境にも背中を押されていたと思います。

慶應義塾で過ごした日々は、講義や実習をはじめ、留学、研究室、ゼミ、救命救急やダンスのサークルなど、全てがかけがえのない宝物になりました。卒業後の進路は、「医療」に貢献したいという思い、高校生向けビジネススクールという「教育」の場で勤めた経験、元来アート好きだったことから、「医療」×「教育」×「クリエイティブ」という範疇での仕事を志向、現在勤めている医療系出版社「メディックメディア」に入社しました。右も左もわからない新米編集者でしたが、先輩たちの力を借りながら、入社３か月後に初めての担当書籍、その半年後には２冊目の書籍を発行することができました。その後は書籍編集に限らず、新規事業の立ち上げや、データ分析、動画部門のプロジェクトにも携わっています。

そして今、慶應義塾の在学中に出会った教授や先輩たちには、引き続き監修者―編集者としてもお付き合いしていただいています。素晴しい良縁に恵まれ、感謝してやみません。このように学生時代はもちろん、家族、友人、知人、職場、どんな時でも素晴らしい方々に支えられてきました。この大事な人々の存在が、何よりも一番の原動力です。まだ社会の一端でスタートラインに立ったばかりですが、これからも既存の枠に捉われない医学教育を求めて、延いては医療現場のためにできることを探求し、常に挑戦し続けていきたいです。

最後の厚女生

89 回生　小坂　智恵子（旧姓　横尾）

1990 年に厚生女子学院を卒業した私たちは、最後の厚女生でした。卒業から 25 年経ち、慶應 1990 年三田会の大同窓会が開催されたのを機に、厚女の同級会を開催しました。一緒に卒業した 68 人の内、22 人が集まりました。

卒業から 25 年・・・。私は卒業後、地元の新潟県公衆衛生看護学校へ進学して、そのまま地元に就職しましたので、卒業以来、初めて会う方も多く「みんな、私のことわかるかな？」「みんなの名前とか覚えているかな？」と会場に着くまではちょっと心配な気持ちでした。でも、会ってしまえばすぐに学生の頃に戻れました。

「みんな変わらなーい！」と、アラフィフの集団が「ちゃん付け」で呼び合う様子は、ちょっと不思議な光景だったかも（苦笑）。病院や訪問看護ステーションに勤務する人、教員になって後輩を育成する人などなど、様々な場で活躍しているのだなぁ、と嬉しくなりました。

私自身は、縁あって地元の企業内の健康管理室で働いています。同級生の中にも、産業保健の分野で働いている人が数名いて、興味深く、情報交換できました。産業保健の対象は働き盛り＆子育て世代で、自分の健康について考えたり、時間を使ったりすることは難しい人たち。まさに、私たちもこの世代です。

同級生のみんなと会って、楽しく語り合えるのは元気に暮らせているおかげ。このような嬉しい時間を楽しむためにも、公私共に忙しい年代ですが、自分のことを大切にする時間を「ちょっとだけ」増やして、また節目の歳（次は還暦？！）に元気に再会しようね。

NMC6 期生　新年会を兼ねた同窓会

学 6 回生　岩本　大希

2015 年 2 月 5 日、少し旬を過ぎた時期に新年会を行った。集まったのは看護医療学部の 6 期生にあたる約 40 名。卒業からは既に 5 年が経とうとしている時期だった。実は、きちんと“同窓会”と銘をうった形で集まるのは初めてだったように思う。大学を卒業し、各々の夢に向けて邁進をしていた新卒からの数年間では、大学の約 4 年間を濃密にともに過ごした学友たちと顔を合わせるのは、なんだかまだ早い気がしていたからだ。

卒業して 5 年も経てば、最初に選んだキャリアから次のステップに行く者、引き続きそのままの現場を究めようとしている者、家族を作り子育てに熱中している者など、本当に多様な人生を送り始めている。主催者である筆者も、新卒で入職し勤めていた大学病院を退職し、訪問看護ステーションを立ち上げ、運営を続けているくらい、学生時代にはあまり想像していなかった日々を送っている。ふとそんなときに“みんなはどうしているのかな”と思った瞬間、気の置けない友人たちに連絡をとりたくなり、同窓会を企画するに至った。

2 月の寒い中、学生の時分では少し背伸びしないといけなかったかもしれない、焼き鳥のおいしい居酒屋へ集まった。急な思い付きでもすぐに連絡と出欠をとることができるのは、SNS が広くしている世の中だとも実感をした。でもインターネットでつながっていても、顔を合わせることは格別であることも改めて感じることができた。

海外へ引き続き関心を持って取り組んでいる、保健師として活躍している、病棟看護師としてステップアップしプリセプターを始めた、ワークライフバランスを重視し転職した、子供が生まれて連れてきた、学生時代付き合っていたカップルが結婚した、など枚挙に暇がないほど相手のことに関心を持ち、自分のことを共有することができた素敵な時間を持つことができた。5 年経っても変わらないことと、変わったことを、前向きに感じることのできた冬の夜だった。

臨床研究コーディネーター（CRC）募集

井口（学 2 回生）
小倉（進ニ 6 回生）
所属しています！

お問い合わせ　〒160-8582　東京都新宿区信濃町 35
慶應義塾大学病院臨床研究推進センター
CRC 採用担当
TEL　03-5363-3899（CRC 室直通）
E-mail　crc-reruit@ccr.med.keio.ac.jp

慶應義塾大学病院臨床研究推進センター
Keio University Hospital Clinical and Translational Research Center

採用人数　若干名
応募資格　看護師資格を有し 3 年以上の病院での臨床経験と 2 年以上の CRC 業務経験がある方（CRC 認定お持ちの方、CRC 経験 3 年以上の方優遇）
雇用形態　医学部有期特任教員
＊雇用形態、任期についてはお問い合わせ下さい
給　与　慶應義塾大学の規定による
その他詳細は、ホームページをご参照下さい
http://www.ccr.med.keio.ac.jp/position/#1182

第 38 回 研修会報告

「医療従事者が知っておきたい外国人患者さんへの接し方～医療通訳について考える～」

2015 年 10 月 23 日、孝養舎 202 教室にて第 38 回紅梅会研修会を行いました。今回は講師として、高嶋愛里さん（特定非営利活動法人多文化共生センターきょうと医療通訳コーディネーター）をお迎えしました。研修会当日は看護師をはじめとした医療従事者、学生など 48 名の方にご参加いただき盛況に終えることができました。

講師の高嶋さんは看護師や、多言語医療電話相談・無料相談会の活動を経て、現在は医療通訳者の養成・派遣を行う医療通訳コーディネーターとして活躍されています。その活動の中での具体的なやり取りを例に、外国人患者さんが抱える問題や医療通訳の役割について大変わかりやすく、ユーモアもまじえてお話しいただきました。医療通訳は単に言語を日本語にするという言葉の通訳だけでなく、医療通訳者が介入することによりお互いの文化や宗教をよく理解することにもつながります。「大切なことは、まず医療者が通訳者に伝えたいことをわかりやすい日本語にして話すこと」という言葉が印象的でした。また、医療通訳体験としてロールプレイを行いました。参加者は 2 人で 1 組となり、通訳者役と患者役になります。日本語での体験だったにもかかわらず悪戦苦闘し、いかに医療通訳が難しいかを実感をもって理解することができました。この研修会に参加して、外国人患者さんと接するときには、通訳の方ともよくコミュニケーションをとり、協力し合うことによって、よりよい医療につなげていきたいと思いました。

高嶋さんの益々のご活躍を祈念するとともに、参加者の皆様、広報活動にご協力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。次年度もより多くの卒業生、在校生、教職員の方にご参加いただき、医療者としての知識を深めるとともに、皆様の交流の場となるような機会にしていきたいと考えております。

（研修委員　学10 回生　川崎　笙子）

紅梅会事務局より

会報はメール便でお送りしております。住所・氏名等を変更された時は、必ず事務局までご一報下さい。不在の場合は留守番電話にメッセージをお願いします。

平成 25 年版名簿に残数があります。購入ご希望の方は電話または FAX で事務局までお申し込みください。

（68 回生　浅田　頼子）

事務局在室時間　月･木曜日 13時～17時（8月は夏休みのため閉室）　直通電話･FAX　03－3341－8116

2016 年後期「特選塾員推薦」受付中

2001 年 4 月から、特選塾員規約の一部変更により、厚生女子学院卒業生も特選塾員となることができるようになり、今までに 254 名の方が紅梅会推薦により特選塾員となられました。塾員であるということは慶應義塾卒業生のメンバーとして、多彩な塾員間との交流ができるようになります。

紅梅会推薦として手続きいたしますので、ご希望の方は「氏名･ふりがな･生年月日･現住所･電話番号･勤務先･回生または卒業年月」を明記して、紅梅会事務局に郵送またはファックスでお送り下さい（8 月 31 日締め切り）。

今回申込みをされた方は 11 月末頃の決定通知となります。なお不明なことは紅梅会事務局にお問い合わせください。

訃報

助19回生	蓮井　菊江（旧姓横山）	2015年 4 月 3 日
19回生	服部スギ子（旧姓滝本）	2015年11月21日
20回生	山口　照子（旧姓林原）	2015年 9 月19日
28回生	藤井　久子（旧姓島田）	2014年11月28日
28回生	岡橋エチ子（旧姓阿久根）	2015年11月 2 日
28回生、助24回	島田カツヨ（旧姓伊藤）	2015年11月 7 日
32回生	小島　敏子（旧姓村越）	2014年 5 月27日
34回生	五味　操（旧姓島田）	2014年10月23日
38回生	趙蔡　俊顕	2012年11月13日

2015 年 1 月 31 日現在

編集後記

編集委員会に参加し、早 2 年が経とうとしています。活動を通し、慶應看護のこれまでの歴史や、最新の情報に触れる機会が得られ、充実した時間を他のメンバーと共に送ることができました。今後も温故知新を大切にし、会員の皆様に情報を発信できるよう、新しいメンバーに引き継いで行きたいと考えております。皆様からも活躍する同窓生や同窓会情報などについてのご意見をお寄せ下さい。よろしくお願い申し上げます。

編集委員長　学 1 回生　倉橋　暖